



Data

監督：田中光敏
 原作：山本兼一『火天の城』（文藝春秋刊）
 出演：西田敏行 / 大竹しのぶ / 福田沙紀 / 椎名桔平 / 西岡徳馬 / 河本準一 / 寺島進 / 山本太郎 / 石田卓也 / 夏八木勲 / 笹野高史 / 緒形直人 / 水野美紀 / 石橋蓮司 / 内田朝陽

👁️👁️ みどころ

今から約500年前の1576(天正4)年、風雲児織田信長が構想した五層七階の巨大な安土城をめぐる男たちのドラマは、熱く面白い。3社のコンペ風景に続く、巨大な檜探し秘話、蛇石運搬作業秘話、親柱4寸カット秘話、という3つの見どころをタップリと味わいたい。また、中小土建屋岡部組のおやじ又右衛門を支えた個性豊かなスタッフたちと、夫婦愛・父娘愛の人間ドラマにも注目。さらに政権交代選挙が迫る今、1000億円以上の税金を投入した巨大公共事業の意義と問題点も、マニフェスト片手にしっかり検討したい。

久々に、こりゃ見ごたえあり！

直木賞作家・山本兼一の傑作歴史小説を、田中光敏監督以下、『化粧師』(01年)のスタッフが映画化。樹齢2000年の檜の大木を撮影するための台湾ロケを含む3カ月という長期の撮影は、CG流行りの昨今ホンモノの迫力がいっぱい。今から今から400年以上前の1576年(天正4年)織田信長(椎名桔平)という途方もない男が発想した、途方もない五層七階の安土城の築城をめぐる物語は壮大で面白い。

この設計・建築・施工一式を請け負ったのは、岡部組といういわば地方の中小土建屋のボスである岡部又右衛門(西田敏行)。設計図のひき方から親柱の建て方、さらにある事情による親柱の4寸カットなど、建築家志望の人たちはもちろん建築大好き人間なら誰でも、3年間にわたるその建築工程に興味湧くはず。

ここしばらく『釣りバカ日誌』シリーズのハマちゃん役に馴れてしまっていた私は、『敦

煌』(88年)以来21年ぶりにみる西田敏行久々の真剣顔(?)に感動。プレスシートによれば、彼にとっても本作の3カ月に及び撮影は、『敦煌』撮影のため5カ月間中国に行きっぱなしという経験に次ぐ「最近の映画の仕事の中でも最長の撮影」だったらしい。愛妻田鶴を演ずる大竹しのぶの名演技に支えられた夫婦ドラマも絶品だが、こりゃ全体として見ごたえあり! 久々にワクワク、ドキドキ、手に汗握る2時間19分の邦画の誕生に拍手!

WTC、都庁VS安土城、大坂城

大阪ベイエリアにそびえ立つ地上55階・地下3階建ての大阪ワールドトレードセンタービル(WTC)への府庁移転問題で橋下徹大阪府知事は一敗地にまみれたが、第2次破綻に伴って選任された更生管財人からの要請を受けて現在再度チャレンジ中。私はその実現を望んでいるが、さてその展望は? 1995年に完成したWTCの建設費用は1193億円、また1991年に完成した東京都庁は1569億円だが、これらと同じく国民の税金によって建てられた安土城の建築費用はHow Much?

プレスシートによれば、安土城の建築費用は現在のお金に換算すれば 土地造成費150億円、石材+石材移動+石垣積み300億円、天守閣建築費60億円、木材40億円、御殿建築費250億円、やぐら・堀の建築費200億円、以上合計で1000億円以上というから、ほぼWTCや都庁と同じ規模。人口や経済規模が今とは比較にならないあの時代、また近代国家成立前の一戦国武将の発想で、こんな大規模な公共事業の実施は前代未聞だ。もっとも、織田信長が本能寺で死亡した1582(天正10)年6月2日から約2週間後の6月15日に安土城は炎上してしまったことを考えれば、短期的視点による政治的・軍事的・経済的效果はともかく、長期的な経済的視点で考えると、安土城建築の意義と問題点は、さて?

安土城完成4年後の1583年に完成した大坂城は、1615年の大坂夏の陣で炎上するまで政治の中核としての役割を果たし続けたから、その効用は安土城に比べれば大。しかして、大坂城の建築に要した費用はHow Much?

まずはコンペに勝たなければ

映画冒頭、いきなり織田信長がわずかなお供だけを引き連れて熱田の宮番匠又右衛門を訪ね、「安土城を築城せよ!」と命ずるシーンが登場する。私はこれを見て、一方では「世紀の公共事業の受注について、こんなうまい話はヤバいのでは?」と心配し、他方では「施主たる独裁者織田信長が施工業者を岡部組と決めたのだから、それで決まり」、と一応納得していた。もちろん、この織田信長の独断は築城奉行の丹羽長秀(西岡徳馬)らには至って評判が悪い。なぜなら、いかに熱田の宮番匠として有名であっても、又右衛門はしよせ

ん地方の中小土建業者の一人に過ぎないのだから。ところが、ある日「急に気が変わった！」と宣言し、コンペ方式に切り替えたから、信長も人が悪い。こりゃきつと、最初から競争を煽るための戦略だったのでは？

そこで登場したのが、金閣寺を建立した京の宮大工の池上五郎右衛門（石橋蓮司）と東大寺大仏殿を建立した奈良・中井一門の総師の中井孫太夫（内田朝陽）という強敵だから、又右衛門も大変。池上も中井も、「巨大な吹抜けをつくれ」という施主のたつての要望を取り入れた設計図と模型を提供したから、信長は大満足。ところが又右衛門の設計図と模型は、施主が固執した吹抜けが無い。これに信長が怒ったのは当然だ。しかし士（さむらい）業と呼ばれるその道の専門家としては、お客（施主）の注文を最大限受け入れるべきは当然だが、あえてそれを拒否してでも専門家としての主張を貫かなければならないことがあるはず。それは、私が弁護士稼業を35年間やってきて痛感することだ。つまり、私は「依頼者迎合型弁護士」ではなく、「依頼者教育型弁護士」だということ（『いま、法曹界がおもしろい！』2004年・民事法研究会・112頁参照）。そして、又右衛門も私と同じように依頼者迎合型ではなく依頼者教育型だったため、施主たる織田信長が固執した巨大な吹き抜け案を拒否したわけだが、それは一体なぜ？

それは何とも豪華な「火災実験」によって明らかになるから、コンペの展開と又右衛門がコンペに勝利した顛末はあなた自身の目でしっかりと。

3つの見どころ その1 巨大檜探し秘話

チャールトン・ヘストンとユル・プリンナーが激突した『十戒』（56年）の冒頭には、父王のために巨大なまちの建設を指揮するチャールトン・ヘストンの姿が登場した。また三船敏郎と石原裕次郎が共演した『黒部の太陽』（68年）は、黒四ダム建設に生命を捧げた男たちの壮大な物語だった。しかし、これらの巨大公共事業（＝土木事業）の建築現場をドキュメンタリー風にカメラに収めただけでは全然ドラマにならないのは明らかで、エンターテインメント巨編に仕上げるためにはさまざまな見どころの設定が不可欠。そんな視点でみると、本作には3つの見どころがバランス良く配置されているから、2時間19分の長尺でも飽きることなく楽しむことができる。

その第1は、天守を支える親柱に使用するための巨大檜探し秘話。又右衛門の判断では天守を支える親柱のためには2尺5寸（75cm）角の巨大檜が必要だが、そんな樹齢2000年を要する巨大な檜は一体どこにあるの？それは木曾上松の木曾檜しかないらしいが、木曾上松は敵地武田の領内にあるから、そこに求めることは問題外！また、仮に又右衛門がそんな敵地に行き、仮に巨大檜を発見できたとしても、それをどうやって建築現場に運び込むの？

そんな到底不可能なことを可能にしたのは、安土城を建築したいという又右衛門の一念だ。杣頭（そまがしら）の甚兵衛（緒形直人）は、当初こそ領主の木曾義昌（笹野高史）の命令に従って、適当に又右衛門に付き合ったうえで追い帰せばいいと考えていたが、又右衛門の一念と付き合ううち人間同士の信頼が生まれ、「七重の城か、オラも見てみてえ」と職人としてのプライドに火がついたわけだ。その結果、伊勢神宮の式年遷宮のために用意されていたお備木を又右衛門に譲るべく、「大雨が降るまで待て。お主の夢にオラも賭けてみる」と約束したが、そんなことがホントに実現するの？

そんな前半のハイライトを、その実現によって必然的に生まれた甚兵衛の絶命という悲しい結末とともに、しっかり味わいたい。

3つの見どころ その2 蛇石運搬作業秘話

巨大な公共事業施行への興味という視点だけで前半を観ていると、思わず時代が戦国時代だということをお忘れそうになる。しかし、古くは『梟の城』（63年）、新しくは劇団新感線の『五右衛門ロック』（09年）を持ち出すまでもなく、当時は石川五右衛門のような「忍びの者」が闊歩していた時代だ。

平次（寺島進）を若頭とする、熊蔵（山本太郎）、市造（石田卓也）ら岡部組のチームワークは抜群。そして映画の中では、岡部組のムードメーカー的存在である働き頭の熊蔵とその恋人うね（水野美紀）との恋模様が少し描かれる。もっとも、それがメインストーリーになるはずはないから、「これは何かの伏線！」とにらんでいると、案の定このうねは武田の喇叭（らっぱ）（忍びの者）だったから大変。

又右衛門の良き理解者である石工頭の戸波清兵衛（夏八木勲）が指揮し、織田信長が見守る中、3万貫もの重さの蛇石を運搬する大作業が開始されたが、このチャンスを見計らって武田方の喇叭たちによって信長暗殺テロが実施されることに。その結果起きた悲しい結末はあなた自身の目で見てもらいたいが、映画が長くなれば弛みがちになる中盤の物語がこの事件勃発によってぐっと盛り上がることに。

3つのみどころ その3 親柱4寸カット秘話

見どころその3は、親柱の4寸カット秘話。安土城建築のオープンセットは淡路島北淡町の高台につくられ、甚兵衛の犠牲によって実現した巨大檜による親柱建立のシーンもここで撮影されたらしい。しかし、思わず手に力が入ってしまう後半のクライマックスシーンである、親柱の4寸カットシーンも当然ここで撮影。もっとも、この親柱の4寸カットシーン秘話は、土木や建築の専門知識がないと少しわかりにくい。

武田の喇叭（忍びの者）による信長暗殺未遂事件によって多大な犠牲が発生したため、

1日だけ建築現場はお休みになったが、その時一人現場に立つ総棟梁の又右衛門が気付いたのが、地下蔵での親柱の周りの敷石の沈み。これによって親柱が天守を突き上げていたから、そのまま放置すれば梁が折れるか親柱が裂けるかのどちらかになるらしい。それを阻止するため又右衛門が立てた計画は、親柱を4寸ほどカットすること。つまり極めて乱暴にわかりやすく言えば、しばらくの間ジャッキで車全体を持ち上げて、パンクしたタイヤを入れ換えるようなものだ。しかし、親柱を4寸カットするためには、梁と親柱が支える城全体をその作業の間しばらく支えなければならないが、大型のジャッキのないあの時代、そんなことが人間の力だけで可能？

さあ、そんなハイライトシーンに向けた人間の力の結集の感動はあなた自身の目で。紀元前数千年という時代のピラミッド建築工事はすべて人間の力だけでやっていたのだから、16世紀の日本でそれくらいのことができて当然かもしれないが、現実目の前でそんなシーンが登場すると、思わず目に涙が・・・。

職場での働きには、夫婦愛と父娘愛が不可欠

1975年の『青春の門～筑豊篇～』でデビューした当時16歳の大竹しのぶの圧倒的な存在感は、私の目に鮮烈に焼きついている。そして、その後の『黒い家』(99年)や近時の『石内尋常高等小学校 花は散れども』(08年)などを観ても、彼女の演技力のすばらしさは際立っている。そんな大竹しのぶ演ずる又右衛門の妻田鶴は、「女人の笑わぬ家は日の昇らぬ家」という父親の教えを日々実践している理想的な妻。待てど暮らせど、固い約束を交わしたはずの甚兵衛からの巨大檜が到着しなかった日々、さすがの又右衛門もイライラし思わず田鶴につらくあたったが、それを優しく受けとめた田鶴はえらい。短いシーンでの登場だが、「さすが大竹しのぶ！」と思わせる説得力ある演技を堪能させてくれる。

他方、恋人の市造に先だたれ(?)たうえ、病に倒れた田鶴を省みない仕事中毒人間の又右衛門に対して、思わず怒りを爆発させたのが一人娘の凛(福田沙紀)。「父さんはひどい。お城のためなら仲間だつて見捨てられる」とキレそうになった凛に対して、田鶴は「お父様をおとしめるのは私が許しません」とその頬を張ったが、その後は泣き



東映ビデオ『火天の城』(通常版)
価格 ¥3,990(税込)
発売日: 2010年2月21日(日)

崩れる凧を温かく抱きしめて立派にフォロー。こんなすばらしい母親の姿をみて成長した凧なればこそ、田鶴が病で死亡した後、あのテロ事件直後の父親を気づかう行動を見せるとともに、親柱の4寸カットシーンでは率先して活躍することに。

本作は、短い時間ながらこの夫にしてこの妻あり、この父親にしてこの娘あり、という人間ドラマもしっかりと見せてくれる。男の職場での働きには、夫婦愛と父娘愛が不可欠だと実感！

2009(平成21)年8月11日記



「火天の城」

(12日から梅田ブルク7ほかで公開)



©2009「火天の城」製作委員会

あなたも安土城築城の目撃者に！

無駄な公共事業とハコモノ行政のチェックは不可欠だが、400年以上前の1576年、日本国のニューリーダー織田信長が実施した安土城築城は、今なら東京都庁1569億円、WTC1193億円に匹敵する1000億円超の大事業。その是非は？ 政権交代選挙が終了した今、そんな視点も大切だが、本作はエントラメ巨編と割り切り、三つの安土城誕生秘話を

楽しみたい。
第1は巨大檜探しの秘話。金閣寺や東大寺大仏殿を建立した宮大工とのコンペに、熱田の富番匠岡部又右衛門(西田敏行)が勝利したのは、吹き抜けに固執する施主信長(椎名桔平)を「火災実験」によって「火の通り道になるからダメ」と説得できたため。そんな岡部が固執したのは、天守を支える2尺2寸(約75センチ)角の親柱

用の巨大檜。木曾檜が絶対だが、そこは敵地の武田領。さあ、そこで展開される仙頭の大庄屋基兵衛(精彩直人)との熱き職人ドラマとは？
第2は3万貫(約120トン)もの蛇石運搬作業秘話。時は戦国だから、「菓の城」(99年)や「五右衛門ロック」(2009年)の石川五右衛門のような喇叭(怒びの音)の潜伏と活動は当然だ。岡部一門に潜伏中の

くノ一うね(水野美紀)らは、運搬作業差配のため暗れ舞台に立った信長暗殺をピンポイントで狙うが、その首尾は？
第3は親柱4寸(約13センチ)カット秘話。少し建築の知識が必要だが、これが本作最大の注目点。地盤沈下等で巨大建築物が傾いたら大変だが、岡部の診断では親柱の周りの敷石に沈み込みが発生中。解決策は車のパンク修理と同じで、城全体を持ち上げ親柱を4寸程度

大阪日日新聞 2009(平成21)年9月5日